

15 Nils Rosén von Rosenstein ヲ

Johann Andreas Murray

——一冊の小児科書をめぐって

深瀬泰且

一八世紀の小児科学界において傑出した人物と目されているローゼンには、その当時の最高の小児科書の一つである *Underrättelser om Barnsjukdomar och deras Bote Medel* がある。これはスウェーデン語がかかれていたため、使用される範囲がかぎられているので、各国語に翻訳されてひろく利用された。

その翻訳の状況と訳者の一人ミュレイについて、いくつかの知見をうる事ができたので報告する。

(一) ローゼンについて

ローゼンは一七〇六年二月一日西スウェーデンのサツクスドレガに九人兄弟の第二子として生まれた。父の意

志にしたがつてルント大学神学部に入學したが、のちスツックホルムにうつつて医学を専攻するようになった。

卒業後大陸各地をおとづれ臨床家としての腕をみいだしたが、とくにプールハーヴェからはおおきな影響をうけた。一七三一年学位をえてウプサラにかえつたローゼンは教職についた。

解剖学にも深い学識をもっており、スウェーデンではじめてかかれた解剖書 *Compendium anatomicum* (一七三八) を出版した。これは記述解剖学の専書としてばかりでなく、応用解剖学書としてもきわだった書物としてもてはやされた。

一七四一年ローゼンは植物学・薬物学の教授に就任したが、その翌年解剖学・生理学・病理学の教授であつたカルル・フォン・リンネと教授職を交換して、それぞれにもつとも適した地位があたえられた。

つとに臨床教育の重要性を認識していたローゼンは、ベッドサイドで学生たちを教育し、自らの往診にも学生の同行をゆるした。ローゼンはまた人痘接種法についてもつよい関心をよせており、王室のもとに應じて、そ

の王子たちに人痘接種をおこなった。その小児科書の中で一章をさいて、人痘接種法をくわしく論じている。

一七七三年七月一六日、ローゼンはウプサラでコレラに罹患して死亡した。

(二) 小児科書とその翻訳書

一七四七年からスウェーデン王立アカデミーは年鑑を発刊した。ローゼンはアカデミーの要請で、小児のいろいろな疾患についての治療法を紹介する論文を寄稿し、のちにまとめて出版されたのが、冒頭にのべた小児科書（一七六四年、第二版）である。一七七一年年鑑の連載が終了したのを機に、全編文をまとめた第三版が出版された。本文は第二版の三六三ページから五四〇ページにふくらんだ。

本書の翻訳は八カ国語におよび、ドイツ語がもつともおおく八版におよんでいる。一方英語版はわずか一版であるのは、トマス・フェイルにはじまるイギリス小児科書の伝統の重みとによってよいであろう。

(三) ミュレイについて

ミュレイは一七四〇年一月二七日にスウェーデンのス

トックホルムに生まれた。ウプサラ大学卒業後ゲッチンゲン大学にうつり、一七六九年内科と植物学の教授に就任した。リンネの植物学の系譜にぞくする正統派の一人である。

小児科領域では、現在われわれがコプリック斑として、麻疹の早期診断上重要視している口腔粘膜疹を一七八五年に報告している。人痘接種法にも長けており、ローゼンはその著書において、スウェーデンにおける人痘接種法の起源と歴史については、ミュレイ教授の論文をよむべきであると推奨している。

ローゼンの小児科書のドイツ語訳は八版をかぞえるが、その第五版までがミュレイの翻訳である。序文につづいて「ローゼンの生涯」という小伝があり、ローゼンについての貴重な資料となっている。

（順天堂大学医学部医史学
東京慈恵会医科大学医史学）